

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 7月 2日

【評価実施概要】

事業所番号	0175300391		
法人名	特別医療法人 明生会		
事業所名	するー・らいふ台町		
所在地	網走市台町2丁目7番4号 (電 話) 0152-61-6131		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年5月26日	評価確定日	平成20年7月2日

【情報提供票より】 (平成20年5月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年6月3日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	18人	常勤17人, 非常勤1人, 常勤換算17.5人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷 金	有 (円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり		1,300 円	(1ヶ月39,000円)

(4) 利用者の概要 (5月12日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名	
要介護1	1	要介護2	1			
要介護3	2	要介護4	8			
要介護5	6	要支援2				
年齢	平均	85歳	最低	75歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	特別医療法人明生会網走脳神経外科・リハビリテーション病院 桂ヶ丘クリニック 吉田歯科医院
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅街にあって、食堂からはオホーツク海が見渡せる高台にあり、環境に恵まれている。地域密着型サービスとして認知症対応型通所介護を併設し、通所者と利用者の交流も図られている。地域においては、町内会活動に参加したり広報誌や運営推進会議を通して、事業所の理念や運営状況・認知症の啓発に熱心に取り組んでいる。日々の暮らしの記録をケアプランに反映させる取り組みがなされ、ケアの充実を図っている。そして母体である医療法人と連携し「終の住処」としてのグループホームを目指している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善項目は検討し、改善に向けて取り組んでいる。玄関先の駐車だけは、避けたほうが人は立ち寄りやすく、検討が望まれる。玄関内における理念の掲示については、若干見にくいので工夫を期待する。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	自己評価を終えたばかりなので、評価を活かした具体的な取り組みは今後の課題である。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	事業所の理念や運営状況、評価の改善課題への取り組み状況、家族会の運営等について、報告や質疑・意見交換を行っている。初回から防災に関する町内会との連携が提起され、体制作りを検討中である。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	広報誌の送付や家族の来訪時の面談を通して、収集し対応している。家族会の提案事項も集約され運営に反映している。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し地域内行事にも参加している。玄関前の外気浴・日光浴や散歩・外出時には交流がある。イベントや外食にも出かけ、地域交流を図っている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念は、分かりやすい言葉で表現し、利用案内パンフレットに掲載し利用開始時にも説明を行っている。また、広報誌の上部に明記し啓発に努めている。	○	玄関内の壁に、近郊の風景写真に理念を入れて掲示してあるが、若干見にくいので、ひと工夫が期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	廊下にはパッチワークのタペストリーとして、冷蔵庫壁には印刷物で、それぞれ理念を掲げ視覚で確認したり、ユニット会議で話し合っ共有し実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し地域内行事(ゴミ拾い)に参加し、市内外の行事にも参加している。近隣に子供が少なく町内行事は少ないが、町内会長は行事への対応に積極的である。また外出や散歩時に近隣住民と交流している。事業所の向かいの住民も時々来訪している。	○	事業所前の駐車帯において、玄関先の部分には駐車しない努力をし玄関前を空けておくなど、住民が立ち寄りやすいよう工夫することが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、前回の評価の改善項目を検討し改善への取り組みを実施するとともに、運営推進会議への報告も行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況の他、防災に関する町内会との連携や町内会の一員としての役割等、多岐に渡って検討を加えている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者と顔馴染みの関係を築き、サービスの質の向上に取り組んでいる。現在は、他事業所と協力し、認知症サポーター養成の取り組みに関して、市と連携を取り進めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	広報誌の送付や家族面談時・行事参加時等を通して、利用者の状況を伝えている。金銭管理については、毎月の利用料請求時に明細と領収書を送付している。また、なかなか来られない家族には、電話を活用している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情等相談窓口を設け迅速に対応できる体制であるほか、家族面談時にスタッフが要望や意見を聞き入れている。家族会を組織し、提案事項も集約し運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設して3年が経過したが、職員の異動は少ない。過去に異動があった際は、新人スタッフをサポートする配慮をし、特に問題はなかった。管理者はスタッフが生き生きと働ける協力をし、働きやすい環境が離職を抑える要因となっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修への参加の他に、事業所内に設置した学習委員会が、内部研修を企画し実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内には、グループホーム部会が組織されていて、スタッフ対象の学習会が隔月に開催されている。管理者同士の研修や情報交換も行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事業所の見学や併設の通所サービスの利用を通して馴染んでもらっている。アセスメントシートを活用し、利用者が安心してサービスを利用できるように、家族と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護する側・介護される側という意識を持たず、一緒に暮らしながら喜怒哀楽を共にし、支えあう関係を築けるように、毎日のふれ合いや気付きを大事にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシートを活用し把握に努めている。毎月ケアカンファレンスを実施し、情報の共有を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランは、本人・家族・スタッフが共同で作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の記録はSOAP方式を活用し、スタッフで共有し分かりやすく記載しており、ケアプラン作成時に反映している。適時にケアプランの見直し作成を行っていて、本人・家族とも話し合っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携加算・通院・特別な外出支援・併設の通所介護等、多機能性を活かした柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望するかかりつけ医への通院支援はできている。契約している訪問看護事業所と連携し、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、利用者や家族と話し合う準備をしている。	○	利用者や家族の意向を確認するとともに、利用者や家族の思いは揺れ動くので、話し合いを積み重ねることが期待される。また、事業所として対応し得る最大のケアについて、スタッフも検討し合い、対応方針の共有化を図ることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人全体として個人情報保護に努めている。ユニット会議の折りに、スタッフの意識向上を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の一人ひとりのペースに合わせてその人らしく暮らしている。希望を表現できない利用者に対しては、その人に合った過ごし方を提案して、反応によって判断している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力量に応じて、献立作成・食材の購入・調理・片付けを一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に合わせて、入浴の支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメントシートを活用し、楽しめる・喜べると思われることをスタッフとともにを行い、表情や発語からニーズに合っているか見分けている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や体調に合わせて、散歩や買い物に出かけている。利用者一人で出かける場合は、少し距離をとり後方から職員が見守りをしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間10時から朝6時までは玄関は施錠している。居室は引き戸なので、戸が開くと風鈴が鳴るように工夫され見守りが可能な居室もある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年避難訓練を行い、意識の向上を図っている。	○	運営推進会議において町内会との連携が課題となり、防災に関する体制作りが具体的に検討される段階に入っており、今後が期待される。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を記録し、一人ひとりの摂取状況を把握している。献立に関する図書類を備えて活用している他、法人の栄養士の助言も得ている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は整理整頓し、不快な音や臭いもなく心地よい。季節感を感じさせる装飾が適度にあり、利用者の笑顔の写真やスタッフ紹介の写真もあり生活の様子がわかる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地良く過ごせる様な工夫をしている。仏壇や小太鼓・裁縫道具などが置かれている。		

※  は、重点項目。